

令和元年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

□日 時 令和2年1月29日(水) 午後3時から午後4時30分まで

□場 所 磐田市立中央図書館2階会議室

□出席者 委員：新貝重幸、浅羽浩、田中さゆり、児玉恵里子、青島公悦、小柳貴臣

(以上敬称略)

事務局等：

村松啓至教育長

市川暁教育部長

中央図書館：伊藤八重子館長、鈴木法之主査、山中則明主査、青嶋健太主事

福田図書館：榎本朋久館長

竜洋図書館：伊能明彦館長

豊岡図書館：高橋道博館長

学校教育課：田中暁子指導主事

ひと・ほんの庭 にこっと：岡本由紀子館長補佐

□傍聴人 0名

□内 容 以下のとおり

議事(1) 令和元年度事業の取組状況について

1. 令和元年度図書館事業の概要(以下、事務局)

(1) 図書館施設管理・施設活用事業

- ・今年度は中央図書館で行政他部署との連携に努めた。行政職と司書とがお互いの経験を活かし、協力して事業に取り組み、図書館施設活用の可能性を広げた。
- ・高齢者事業にも取り組み、中央図書館で、劇団たんぼぼの団員を講師に迎え、音読教室を初めて実施した。音読教室は昨年の図書館協議会で委員から提案されたもので、館内で高齢者事業を検討していたこともあり、開催できてよかった。内容は、始めに少し体をほぐし、発生のコツ等を教えていただいた後、金子みすゞの詩や芥川龍之介の小説の一部等を参加者で声に出して読んだ。最後には、効果音を入れながら、劇団たんぼぼの芝居の台本をグループごとに役割を分けて読み、ラジオ小説のような雰囲気味わっていただいた。参加者からは大変好評であった。参加希望者が多く、今後もニーズに応え、継続して実施していきたい。
- ・図書館職員が講師となり、資料の検索や予約の方法、館内 OPAC(資料検索機)の使い方や電子図書館等、図書館をより便利に使うための図書館活用ミニ講座を開催した。こちらも継続実施により定着させていきたい。
- ・昨年同様、情報発信の強化に継続して努めた。

(2) 図書館資料整備事業

- ・毎週の新刊案内での選書において、4館で複本調整をし、調整した金額を各館の特色を充実させるための資料の購入に充てる仕組みを、各館の実務担当者が中心となって作った。

(3) 子ども読書活動推進事業

- ・市内4館の児童書の購入において、西川・土屋基金から引き続き助成をいただき、今年度は中央図書館で贈呈式を開催できた。市民にも基金について広く知っていただくとともに、「子ども

と読書講演会」への助成をいただき、講演会の開催もできた。大変感謝している。

- ・読み聞かせボランティア養成講座は、図書館職員が講師を務め、より実践に基づいた内容となり、好評であった。今後も職員が講師を務める形で、継続実施をしていきたい。

(4) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・国立国会図書館へのデータ提供への登録をし、協力員作成の録音図書が、全国で広く活用される仕組みを作った。

(5) 協働による取り組み

- ・図書館だよりに、図書館ボランティアの活動や雑誌スポンサー制度について改めて紹介するとともに、新たな参加や協力を呼び掛けた。
- ・各図書館に設置している投書箱「わたしのひとこと」について、いただいたご意見の抜粋を図書館だよりで紹介した。中央図書館への「勉強スペースが少ない」というご意見に対し、夏休み期間中は展示室の一部を学習室として利用できることや、学習交流センターの案内を回答した。その後、「閲覧机で勉強する方が多く、閲覧スペースが少なくなってしまう」というご意見があったため、閲覧席の一部を閲覧専用席として設けるという対応をした。利用者からの意見を生かしながら図書館を改善していく「協働」の位置づけで取り組んでいる。

(6) 災害対策

- ・図書館システムサーバの停電対策として、非常用発電機を購入した。これにより、中央図書館の地域が停電しても他の地区が停電していない場合は、非常用発電によりシステムを稼働させ、地区館が開館できるような体制を整えた。
- ・昨年10月の大型台風19号の接近による臨時休館を踏まえ、これまで明文化していなかった「磐田市立図書館防災対応基準」を策定し、ホームページや館内掲示により周知に努めた。

(7) 各館の取り組み

中央図書館

- ・市スポーツ振興課と共催で「ワールドカップラグビー展」を2階展示スペースで開催した。また、8月には「ワールドカップラグビー・ベースキャンプおはなし会」を開催し、元日本代表選手によるラグビーの実演や、図書館職員による、磐田市でベースキャンプを行ったオーストラリア、アイルランド、ロシアの民話の読み聞かせ等を行った。
- ・市文化財課歴史文書館の「鉄道と磐田」展を1階展示室で行ったのち、2階展示スペースで現在展示中である。

福田図書館

- ・読書週間(10月27日～11月9日)の期間に、小学生を対象として、職員手作りの読書通帳を希望者へ配布した。目標50冊を達成した児童には、「おすすめの1冊」を提供してもらうとともに、賞状を授与する等、読書推進へのきっかけ作りに努めた。

竜洋図書館

- ・おはなしの部屋の近くに子育て支援コーナーを新設し、児童書を選んでいる子育て世代の方が、子育て関連の一般図書も目にとまるような工夫をした。

豊岡図書館

- ・年度初めにヤマハ発動機から寄贈された書棚も利用しながら、閉架書庫を整理した。閉架書庫は、現在は作業スペースとして活用している。

全館

- ・市役所本庁舎の1階展示コーナーで「そうだ！図書館へ行こう」パネル展を開催した。よく読まれた本(ベストリーダー)の展示や、ランキングを掲示した。ランキングは、一般書、ヤングアダルト、児童書で分け、十進分類法に基づいた分野別で順位付けをした。
- ・図書館だよりでボランティアの方々の活動を紹介している。令和元年12月号では、中央図書館で活動するボランティアを紹介し、今後地区館のボランティアや音訳・点訳協力員を紹介していく予定である。
- ・雑誌スポンサー制度についても、図書館だより令和元年6月号に掲載し、制度の仕組みやスポンサーになっていただいている企業や団体の方を紹介した。

2.平成31年4月～令和元年11月事業報告（以下、事務局）

- ・個人利用状況の1日平均の数字を昨年度と比較すると、1日平均の入館者、貸出利用者、貸出点数共に豊岡図書館以外の館では減少している。平成29年9月から豊田図書館が閉館し、平成30年8月ににこつとが開館したため、その影響をそれぞれ受けたと考えられる。平成28年度の1日平均と比較すると、中央図書館の貸出利用者数はわずかに増加しているが、貸出点数では4%減となっており、福田図書館、竜洋図書館では貸出利用者数、貸出点数ともに減少している。豊岡図書館ではほぼ横ばいで増減はなかった。
- ・資料別貸出については、特に児童書の貸出数は、にこつとの影響もあり大きく減少しているが、郷土資料の貸出がわずかに増加している。これは、中央図書館での郷土資料・行政資料を集めた「いいら磐田」コーナーの新設、竜洋図書館での歴史文書館との展示物の連携に努めたこと等が増加要因と考えられる。にこつとが開館したことで、昨年度と比較してにこつとを含めた資料の貸出点数の合計は増加している。貸出合計数の内、約21%がにこつとの貸出点数となっている。
- ・所蔵予約件数では、WEB予約が福田、豊岡図書館で増加している。窓口等でWEB予約の活用の周知に努めた結果でもあると考えている。
- ・レファレンス件数は、豊岡図書館で約2倍に増加している。これは、昨年度秋から計測方法を手書きからカウンター計測にしたため、レファレンス数の把握が正確にできた結果と捉えている。
- ・児童サービスのおはなし会については、にこつとが開館の影響や生活時間の変化等もあり、図書館でのおはなし会への参加者は減少している。中央図書館では、次年度からのおはなし会のあり方について検討し、定例のおはなし会の回数は絞り、水曜日の午後のおはなし会は廃止、第2、第4土曜日の小学生向けおはなし会は、長期休暇の中での実施や、図書館ガイダンスに来館していただいた中での実施に変更していく予定である。
- ・電子図書館については、昨年度に比べ貸出数等は約1.7倍に増加している。ニーズに合った選書に努めるとともに、図書館ホームページや、図書館だより、図書館活用講座等による地道なPRの効果も表れてきたのではないかと考えられる。

〈質疑・意見〉

- 図書館だよりに掲載している「私のひとこと」の意見の中に「特集コーナー」についてのご意

見があるが、更新の頻度や選書について教えてほしい。

(事務局) 新刊コーナーは毎週更新している。特集コーナーは2か月ごとに司書の選書で更新している。

○図書館がテーマになっている映画を観たが、社会的なインフラの1つとなっていて、困ったことがあれば図書館へ行けば解決できるという印象を与えていた。磐田市の図書館は今年他の行政部署と連携して魅力的な企画をやったり、資料購入の際に市内の館で調整するよう工夫したりする等、素晴らしいと思った。

○レファレンスの内容について、どういったものが多いのか。

(事務局) 利用者の知的好奇心は幅広く様々であるが、特に多いものは郷土に関するものである。4館のレファレンスの担当でレファレンス内容をまとめ、回覧して共有するようにしている。

○DAISY 図書の利用の概要について教えてほしい。

(事務局) 利用者から希望の図書のリクエストがあつてから、所蔵している点字図書館や機関を探している。そこから中央図書館へ届き、無料の郵送で利用者へ届けている。返却は、利用者から中央図書館へ返送していただき、中央図書館から貸出館へ返却している。サピエという点字図書や録音図書の全国的なデータバンクがあり、直接ダウンロードすることも可能で、図書館を介さずに個人会員として利用している視覚障害の方もいらっしゃる。直接ダウンロードが可能となったこともあり、図書館を介しての貸出は増えておらず、一定の利用となっている。

○電子書籍サービスについて、今後の方針について教えてほしい。

(事務局) 赤松文庫約3300点の電子化及び保存が最優先と考えている。磐田市ならではの資料として、後世に残すという保存の目的があり予算を計上している。使用料を支払い購入している商用コンテンツについては、継続して購入することで考えてはいるが、予算の許す範囲で少しずつという状況である。全体としては、地域資料の保存が主である。

○図書館の利用者の約20%がにこっとであること、また、にこっとができたことで各館の児童書の貸出数が減少したという報告があつたが、図書館の利用者は子育て中の世代が多いのかと思う。子育て支援と図書館の機能は密接に結びついているのだと感じた。図書館やにこっとが子育て世代の心のよりどころとなっているのではないかという感想を持った。

(事務局) にこっとは昨年のオープンから1年が経った。入館者数は昨年と同様の数を維持できている。それだけ多くの方に利用していただいていると実感している。近くに中央図書館があるので、利用者は上手に使い分けているのではないかという印象である。おはなし会へも、多くの方に来ていただいていることから、親子で読書に親しむきっかけ作りへ貢献させていただいているのではないかと思う。

○本のリサイクル市を毎回楽しみにしている。参加できないときはとても残念に思う。図書館の入口に常設の小さいリサイクル市を置いてもらえたら嬉しい。

○学校で、どんな図書館であれば行きたいかアンケートを取ったところ、わいわい友達と寛げる雰囲気がいいと答えた子と、静かにゆっくり読める雰囲気がいいと答えた子が半々くらいであった。県図書館大会の話に出てきた、高知県の「雲の上の図書館」には、ゆっくり読書ができる場所があつたり、複数人で話し合う場所があつたり、体を動かせる場所があつたり、設計だけでなく、中身も工夫されていた。足を運んでもらわないと本に接する機会を作ることができ

ないので、そういうための工夫がされていると感じた。磐田市の図書館も様々な工夫をしていて、年始に行われていた「図書館おみくじ」は今年のおすすめ本が書いてあり、普段読まない本を読むきっかけとなっていると思う。

- 図書館のホームページに小学生、中学生用の調べ学習に役立つ資料が載っていて、「磐田の学校の歴史『遠州三大学校』」の中に自分たちの学校の前進の学校が出ていた。子どもたちはそういう身近な話題に興味を持つと思う。資料作りは地道な作業だと思うが、様々な面で工夫していると感じる。
- 学校の中で、ボランティアの方がお昼休みに本を読んだり、紹介をしたりしてくださっている。地域の支援員と学校、コミュニティスクールのコーディネーター、地域の図書館との深い連携がこれからますます必要になってくると思う。今後ともよろしく願いたい。
- 読み聞かせボランティアの活動をしている中で最近嬉しかった出来事がある。遠方から来ていただいた方から、いつも落ち着いて本の読み聞かせを聞くことができなかつた子がこんなに静かに本の読み聞かせを聞いたのは初めてで、敷居が低くておはなし会に入りやすかつたという感想をいただいた。これからも活動を続けていきたいと思う。
(事務局) 福田図書館で月に1回おはなし会をしていただいている。毎回話し合いで改善に努めていて、このおはなし会を楽しみに足を運んでくださる方もいらっしゃる。非常にありがたい。図書館職員によるおはなし会も、ボランティアの方と一緒に図書館を気に入っていただけるように努めていきたい。

3. 連絡事項

- ・ 次回の協議会の開催は令和2年7月頃を予定。